

赤外線冷媒ガス検出器（MGS-250 型）の検出対象ガスに、新しく R514A と R452B が追加

2017 年 11 月 15 日

Bacharach（バカラック社 米国ニューケンジントン） 発表

冷媒ガス検出機器、ガスリーク検出監視装置市場において、常に主要メーカーである Bacharach 社は、MGS-250 型赤外線冷媒ガス用検出器に、新しく R514A と R452B の 2 種類のガスを、検出ガスオプションとして追加することを発表しました。

これからは、R-514A および R-452B 冷媒ガスを、MGS-250 の非分散型赤外線センサ技術を使用して、正確に検出できます。



この非分散型赤外線センサ（Non-dispersive infrared sensor）技術は、これらのガスを検出する際に、ユーザーにとって大きなメリットをもたらします。

他のガスからの相互干渉を排除し、温度と湿度の変化からの相互干渉を排除し、測定が正確で安定していることです。

また、センサ寿命が5~7年と長く、メンテナンス作業を削減できることもメリットです。

Modbus RTU プロトコル、アナログ出力、リレー出力を使えば、R514A または R452B を使用した冷凍システムを、ビル管理システムや産業用自動制御システムに、容易に接続できます。

Bacharach 社は、冷凍業界の環境にやさしい冷媒の使用に向けた動向に、検出および監視できる冷媒ガスの種類を増やすことによって、冷凍および冷蔵産業をサポートします。

R514A 冷媒ガスについて

R514A は GWP (地球温暖化係数) が 2 未満の非常に低い冷媒で、遠心式圧縮機型冷却器 (Chiller) に使われている R123 の代替品になります。これは、HFO 1336mzz (Z) (74.7%) とトランス-1,2-ジクロロエテン (25.3%) の混合物であり、従来冷媒では使用されていなかったガスです。

R514A は、ASHRAE (米国暖房冷凍空調学会) 規格 34 クラス "B1" 冷媒であり、可燃性ではないが、毒性がより高いと分類され、OEL (職場暴露限界) は 323ppm です。

B1 クラスの冷媒の使用には、冷媒のリークモニタリングが重要となります。

R452B 冷媒ガスについて

R452B は空調用途で使用される R410A に代わる、より低い GWP 代替冷媒として設計され、GWP は 676 で R410A の約 65% です。R32 (67%)、R1234yf (26%)、R125 (7%) の HFO / HFC 混合冷媒です。

ASHRAE 34 は、R452B を「A2L」冷媒として分類しています。つまり、無毒であるが軽度の引火性があります。

A2L 分類された冷媒の高信頼性で正確なリークモニタリングは、規制を遵守し、冷媒の安全な使用を支援する上で重要な要素です。

バカラック社について

Bacharach 製品は、暖房、換気、空調、冷蔵産業をより安全に、よりクリーンに、よりエネルギー効率の

高いものにします。Bacharach 社は、ガス検知データソリューション、監視および分析機器の設計、製造、

サービスにおける世界的リーダーです。ペンシルベニア州ピッツバーグに本社、カナダ、アイルランド、イングランドに製造・物流施設を有します。創業から 100 年以上続く Bacharach 社は、固定型および持運び型製品ポートフォリオを拡大し、世界市場でのプレゼンスを高め、高品質ガス測定および監視ソリューションを提供します。これらのソリューションは、生産性を高め、コストを削減し、生活環境を保護します。主な市場は、チラープラント、スーパーマーケット & 食品小売、食品と飲料の処理設備、住宅と商業の加熱と冷却、公共設備の空調スペース、業務用冷蔵庫、冷凍庫、ボイラー & 発電機、工業用プラント、発電エンジン、商業用冷蔵庫およびデータルームです。